

世界的発見!

鳥屋城山から

モササウルスの化石

令和5年(2023年)

12月13日(水)、和歌山県立自然博物館は、有田川町の鳥屋城山から発見された、調査研究が進められてきたモササウルス類の化石(全長約6m)が、これまでのモササウルス類とは大きく異なる特徴がみられることから、新属新種であることが判明し、学名を「メガプテリギウス・ワカヤマエンス(通称ワカヤマソウリュウ)」と命名したと発表しました。その化石は、モササウルス類の進化の歴史を解明する上で、極めて貴重な世界的発見と評価されています。



化石

モササウルスとは?

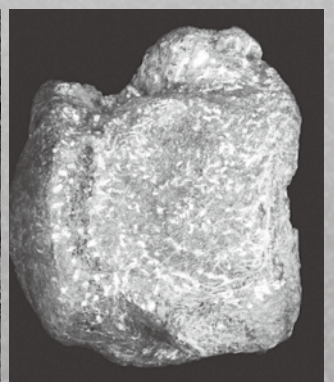
モササウルス類は、約9800万年前の白亜紀後期に出現し、約6600万年前に恐竜とともに絶滅するまでの間、海生爬虫類で、^{モササウルス}滄竜とも呼ばれています。巨大なトカゲやヘビに近い肉食の生き物で、その全長は10mを超え、超えるようなものも存在したことから、陸の王者である肉食恐竜に対して、海の王者として君臨していたと考えられています。



発掘された化石(歯)



化石の発掘現場



最初に発見された化石(椎骨)